

■高校野球のケーススタディー（第29回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 控え選手がベンチ前に出て、守備位置から戻る選手をハイタッチで出迎える行為について (秋季兵庫県大会から)

秋季兵庫県大会では、守備から攻撃に移る際、守備位置からベンチに引き上げる選手を多くの控え選手が、ファウルライン付近まで出てきてハイタッチで出迎える場面をよく見かけました。

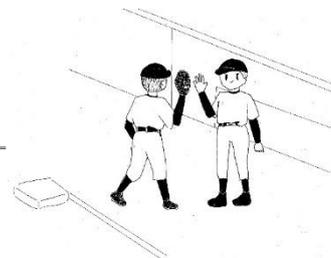
プロ野球では、テレビなどメディアを通じてよく見かけるシーンですが、高校野球においても同様のことが行われているようです。このような行為について、ルールの側面から見ていきましょう。

公認野球規則では、5.10(k)において次のように規定されています。

両チームのプレーヤーおよび控えのプレーヤーは、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、あるいは一塁または三塁のベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチに入っていないなければならない。

つまり、控え選手は、ブルペンでキャッチボールをするなど出場する準備をするか、ベースコーチとして出ている場合を除いては常にベンチ内にとどまっていなければなりません。みだりにベンチを出ることは「規則違反」といえます。

また、地区大会や県大会の抽選会で各チームに配付している「規則・マナーに関する注意事項」では、次のように記載されています。



【マナーに関する事項】（重点事項）

- ・ベンチ前でのハイタッチや出迎えは禁止する。

【捕手・その他野手に関する事項】

- ・控えの選手は、攻守交代時に打撃終了した野手の「帽子・グラブ・必要に応じて水分」をファウルライン付近まで、運んでスムーズな準備に協力すること。
- ・控えの選手は、捕手の用具脱着をダートサークルとネクストバッタースボックスの間で、準備・協力すること。

「投手は打者を待たせない、打者は投手を待たせない」という気持ちでゲームを進めるためには、先頭打者、次打者およびベースコーチはミーティングに参加せず、速やかに所定の位置につくことが求められます。

このため、控え選手が攻守交代の際、捕手や打者の準備をサポートすることは、テンポのあるゲームを行う上でとても大切な行動です。

ハイタッチで選手を出迎えるのではなく、攻撃から守備、守備から攻撃に移る際、選手各々がやるべき役割をぜひこの機会に確認しておいてください。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：谷口 真奈佳さん（74 年生）

イラスト：森 雛里さん（3 年生）